令和7年度　学校評価報告書

島根県立益田高等学校

1　スクールミッション
地域や大学、研究機関との連携による先端的・探究的な学びや、進路希望の実現に向けて主体的に科目選択ができる単位制による学びを通して、
地域や国の未来を切り拓くことができる人材を育成する。

2　学校教育目標
主体的に物事に取り組み、（自分が「伸びる」と信じ、積極的に自分を「伸ばす」行動をとることができる）様々な他者とのつながりを通して自らを高め、
（ちがう　かかわる　かわる）未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。（未来を構想し、構想を実現するための行動をとることができる）

3　重点目標
（1）学力保障　多様な学びによって身につけた知識・技能を利用して思考・判断・表現し、自ら探究する主体的な生徒を育てる。
（2）進路保障　自らの未来を構想し、自己実現に向かって創意工夫しながら行動する自立的な生徒を育てる。
（3）資質保障　多様な学びによって身につけた資質・能力を生活や人生に活かし、未来を切り拓く自律的な生徒を育てる。

4　学校経営方針
（1）　すべての生徒・教職員の生命と尊厳が守られ、安心して学びや活動に打ち込める、安全な環境をつくる。
（2）　対話による共通了解や相互承認をコミュニケーションの軸とし、ともに助け合い高め合う学校経営を推進する。
（3）　自分が「伸びる」と信じ、積極的に自分を伸ばそうとする生徒を育む授業・教育活動・部活動を推進する。

【合い言葉】「　伸びる　伸ばす　」

【益高生に身につけさせたい8つの資質・能力】
①自主性、主体性　②思考力、創造力　③課題発見・解決力　④社会性、協働性
⑤粘り強さ、逞しさ　⑥表現力、発信力　⑦マネジメント力　⑧自己肯定力

重点目標	分掌別目標(具体的な取り組み)	成果指標	具体的な取り組みと達成状況 ・ 教職員による自己評価		学校関係者評価 ・ 意見	次年度へ向けての方針・改善策
学力保障 学習指導に関すること	・授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・「生徒が主体となる授業デザイン」というテーマを設定し、相互の授業見学（授業興隆週間）を行った。外部からの見学者も増加し、様々な意見をいただいた。	3.1	・文科省が高等教育を理系にシフトさせるような方向で動いている。地域社会の人達が理系の重要性を分かっていないので理系が苦手だから文系に進めばいいと安易に考えがち。SSHでやってきたような理系の思考や課題解決型の思考というのが、これからの教育の根幹を成すものだということを地域の中で理解してもらわないといけない。 ・理数科という名前そのものが昭和の発想。それを変えて『創造科』『未来づくり科』などの名前にして理数や普通という言葉をなくしてはどうか。興味を持つ人が増えるかも。 ・小学校はさいえんすたうんや理科読で支援してもらっているが、高校生と小学生の距離は遠いと感じる。理科読に卒業生が来てくれたが、もう一歩踏み込んで子どもたちと膝を交えて色んな話をしてほしかった。子どもたちもその時間は活動を楽しんでいるが益田高校という看板が見えてこない。 ・高校生が理科の楽しさを伝えて終わり。教えるので精一杯で小学生に益田高校に行きたいと思ってもらえるようになるにはもっと関わる時間が必要。教材を通して向き合うことはあるが、本当の意味での話し合いはできていない。高校生が話を聞いてくれて、益田高校に行けばこんな楽しいことが待っていると分かれば、中学3年間の過ごし方が変わってくるかもしれない。 ・中学生の保護者にどうやって益田高校の魅力を伝えるか。理系人材を増やしていかないといけないという視点で考えたら、小中と益田高校が連携しないといけない。中学校側からこの子は益田高校に行った方がいいという生徒を何人か推薦してもらって、その子たちに対して益田高校で学ぶとこういうメリットがあるというアナウンスをしていくのはどうか。そういった協力を市や中学にしてもらうという方向は？その方が地域全体で理系人材育成に取り組めるのでは？ ・第2回の学校運営協議会において生徒が意見発表をして大人と話し合ったことは非常に高く評価できる。 ・益田高校は大学進学というのが一番にあって、自分の夢ややりたいことを叶えられやすい場所と言えば、小中学生にもイメージしやすいのではないか。高校としては自分の将来を描きやすい場所が益田高校だと伝えていけたらいいと思う。	・授業興隆週間は次年度もテーマを設定し年2回行う。授業力向上プロジェクトに参加している教員もおり、継続して授業力の向上を図る。 ・生活時間調査が単に勉強時間の調査に終わらないようにする。生徒が自分の生活時間を振り返り、マネジメントすることで、学力向上・諸活動との両立、自己調整能力の向上につながるようなシステム・運用にしたい。 ・本校のSSH事業は、地域を巻き込んでいる点だけでなく、全教職員体制で取り組んでいる点も国から評価されており、全国230校のSSH校のモデルになっている。来年度は認定枠指定最終年度であり、プログラムの大きな変更はないが、読解力評価のための外部テストを導入したり、課題探究でグループ探究以外に個人探究を模索する、校外実習先の変更等、校内外の連携強化とプログラム中身の一部変更を検討している。
	・図書館の学習センターの機能を整え、学ぶ場としての利用を推進する		・明るく探しやすい図書館を目指し、書加配の変更や資料整理を行い、生徒に呼びかけを行った結果、利用冊数が昨年度の2倍になった。	3.0		
	・探究的な学びの基盤となる論理的思考力、プレゼンスキル、データ活用力を身につけさせる		・SSHでの取り組みが生徒の資質向上につながるよう、校内での分掌・学年部・教科を越えた連携と益田市、県立高校魅力化コンソーシアム（ユタラボ）、市議会、地元企業等との連携をより強化する。 ・生徒が、SSHの活動だけでなく学校生活を通して身に付けた力を自覚し、将来どのように生かしたいかを考えていけるように、生徒への声掛けとともに学校全体での連携強化が必要と考える。	3.1		
	・課題探究、課題研究などを通して他者と協働する力を身につけさせる			3.1		
	・郊外の発表会に参加させることで、意欲を高め、他の生徒に波及効果をもたらす			3.2		
	・SSHの取り組みを通して、科学への興味関心、地域貢献への意識を高めさせる			3.3		
進路保障 進路指導に関すること	・ホームルーム活動における進路学習を充実させる	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・各学年とも時期に応じた進路LHRを行い、充実したものであった。特に1年生の満足度が高く、文理選択や志望分野決定に向けての意識の高さが窺えた。	2.9		・進路に関する情報がより複雑になってきているので、進路LHRや進路講演会、保護者説明会などを通して、生徒・保護者のニーズに沿ったより正確な情報発信に努める。 ・生徒にとっての何よりの進路指導は先生方との面談であると考えている。各学年ともこまめな面談を行っているので、引き続き面談を通して生徒の進路志望を明確にさせ、それに向かうための具体的な努力の方向を提供していく。 ・SSHプログラムを通して身につけた力や考え方、探究・研究の過程が生徒にとって大事だと考えており、それらを大学入試等の場面でも活かせるよう、進路指導部やSSH事業部、各学年部との連携をより強化する。
	・学年集会や進路講演会を効果的に実施する		・生徒に対しては学年集会や進路講演会を通して情報を発信し、進路意識を高めた。保護者に対しては保護者説明会などを通して積極的に情報提供を行った。次年度に向けて、こちらからの情報提供だけでなく、生徒自ら必要な情報を取りに行く力の育成も考える。	3.0		
	・生徒・保護者に情報提供を充実させ、進路意識の高揚に勤める			3.1		
	・進路検討会で適切な助言を与え、面談等で具体的な指示ができるよう支援する		・担任との個別面談の回数を多く設定するとともに、学年ごとに行われる進路検討会で多くの教員が参加し、協議した内容を伝えながら個々に応じた支援を行った。	3.1		
	・模試を効果的に行い、結果による学力分析を迅速に行う		・模試の結果分析を緻密に行い、各教科に情報提供を行い指導改善の資料とした。きめ細やかな分析を通して確かな学力の育成に勤めなくてはならない。	3.1		
	・基礎学力の定着、学習習慣の確立、進路目標の設定に重点をおき、指導をする			3.1		
資質保障 生徒支援に関すること	・基本的生活習慣を確立し、規則遵守の大切さを理解し行動できる資質の育成を図る	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・基本的生活習慣の確立へ向けた指導を行ったが、校則やルールの徹底について不十分な部分があった。	2.8		・基本的生活習慣の確立、規範意識に対する働きかけが一時的なもので終わるのでなく、教員間の共通認識をもって継続性のある取り組みにする。 ・保健室への来室者増加は今後も予想され、精神的に弱い生徒がいるのは確かである。校内の各担当の連携による対応を継続するとともに、保護者への理解協力も求めたい。 ・問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のためにも先生方との情報共有を密にし、生徒の現状把握ならびに校内で統一感のある生徒指導を行いたい。小さなSOSを見逃さず、表面化しにくいSNSトラブルなどは安全安心アンケートでカバーするといった方策を続けたい。 ・生徒会活動の企画・運営を通じて学校全体を盛り上げる役割を果たすと共に各学年、各クラスでのリーダー的存在となるように支援する。 ・今年の1年生は部活動への加入率が高かった。来年度も新入生に対する部活動勧誘、部員確保をしっかり取り組んでいきたい。
	・新入生橋渡しウイークを効果的に実施する		・各分掌や1年学年部が協力して、わかりすい高校生活の導入になった。	3.2		
	・支援が必要な生徒に対して、担任、関係教員、関係機関と連携して支援に努める		・学校生活に課題を抱える生徒に対し、特別支援Co、SC、みらいデザインルームに加え、SSWの役割分担を明確にし、スムーズな支援ができた。	3.5		
	・生徒にお互いを思いやり、教生しようとする姿勢を持って日々を過ごさせる		・安全安心アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた。いじめ事案に対しても組織的に対応している。さらに予防的取り組みが行えるように工夫していきたい。	3.1		
	・いじめ等の問題に早期に発見・対応できるようにし、安心して生活できる環境作りにつなげる			3.3		
	・生徒会の活性化をはかり、より良い学校づくりのための自主的な活動を行わせる		・生徒会執行部を中心とした学園祭企画運営は生徒の主体的な姿勢が多く見られた。PTAとも連携してクリスマスイルミネーションの飾り付けを行った。	3.2		
	・部活動の充実を図り、計画的に取り組む力と自己管理能力を育成する		・部活動時間のマネジメントが大幅に向上した。「身につけさせたい資質・能力」の育成のためにも文武両道を実践できる環境作りに貢献したい。	3.0		
学校運営	・教育目標、重点目標の達成に向けた教育活動・学校運営を行う	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・グランドデザインのもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業などすべての教育活動を通して、教職員が努力した。来年に向けてさらなる連携強化を図る。	3.0		・生徒募集の際に益田高校の魅力をどのように中学生やその保護者、地域へ向けて発信するのか模索していく。 ・様々な課題に注力し、コンソーシアム、PTA、卒業生会、地域、大学等関係機関と連携をはかりつつ、学校運営に取り組まなくてはならない。
	・事業予算の適切な執行と校内の施設設備の維持管理を進める		・限られた予算を適切に執行できるよう努めた。施設設備の修繕を進めるとともに、校舎内の整理整頓が進んだ。	3.3		
	・保護者、地域、関係機関と双方向的、協働的な関係性を構築する		・PTA活動はおおむね計画通りに進められた。学級懇談会や部活動懇談会を実施したところPTA総会への出席率が向上した。HPなどで情報発信がこまめにできた。	3.2		